

# 家 庭

## 1 学習指導の改善・充実

### (1) 学習指導の改善・充実の視点

専門教科「家庭」においては、少子高齢社会の進展やライフスタイルの多様化、食育の推進などの社会の要請に対応し、衣食住、ヒューマンサービスなどに関わる生活産業への消費者ニーズの的確な把握や必要なサービス提供等を行う企画力・マネジメント能力を身に付け、生活文化を伝承し創造する人材を育成することを重視している。

特に、生活産業における将来のスペシャリストに必要な資質や能力として、以下の3つの力を育成することが求められている。

- ①衣食住、ヒューマンサービスなどに関わる生活産業の各分野で職業人として必要とされる資質や能力
- ②生活文化の伝承と創造に寄与する能力と態度
- ③生活産業を取り巻く諸課題を倫理観をもって解決し、生活の質の向上と社会の発展を図る能力と態度

### (2) 効果的な学習指導

生徒には、専門教科「家庭」における学習を通して、人や生活に対する理解を深め、衣食住、ヒューマンサービスに関わる専門的な知識や技術、コミュニケーション能力を身に付けさせるとともに、人々の生活の安心や安全を守る高い規範意識や倫理観を備えさせることが求められている。そのため指導に当たっては、実践的・体験的な学習の意義とねらいを生徒に十分理解させ、常に生徒各自の生活に目を向けて課題意識を持たせるとともに、問題解決能力の育成などを一層重視し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような実験や実習等の学習を取り入れることがより必要となる。

また、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた指導を一層充実させるためには、生徒に身に付けさせたい力を明確にし、学校の特徴に応じた学習活動と関連付けながら実施する、観点別評価が必要となる。その際、各項目に照らした評価規準を毎時間4観点について設定するのではなく、いずれかの観点到重点を置くなど評価規準を適切に設定し、その実現状況を的確に把握することが求められる。

#### ア 観点を絞った評価の工夫

例えば、実験・実習、演習、体験等の実技などについては、数時間にわたる学習内容に対して「技能」の1観点到絞って評価するというようなことも考えられる。

#### イ 生徒の学習意欲を向上させる評価の工夫

評価の方法には、学習活動の中で全員を対象としたもの、個人を対象としたものなど様々な状況に応じて評価する方法を複数組み合わせる必要がある。また、生徒の学習状況を把握するためには、ワークシートやノート、長期にわたる計画や反省などの記録、レポートなどがあるが、生徒の意欲を高めるためには、例えば、日頃から生徒の様子を十分観察し、不得意な内容などについてはあらかじめ適切な助言を行い、学習意欲が高まるようなきめ細かな指導を図ることも重要である。

## 2 評価方法の改善・充実

### (1) 学習評価の基本的な考え方

実際の評価に当たっては、教材、学習活動等に応じて適切な評価規準を設定することが大切である。

【専門教科「家庭」の評価の観点及びその趣旨】

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
生活産業を取り巻く諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	生活産業を取り巻く諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、生活産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	生活産業に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、生活産業に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	生活産業に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活産業の社会的な意義や役割を理解している。

### (2) 学習評価における配慮事項

各学校において、学習評価を行うために評価規準を設定することは、指導と評価を着実に実施することにつながる。評価規準を設定する際は、次の点に配慮する。

- ア 各単元における指導と評価の計画が各観点の特徴を踏まえたものであること。  
はじめに、科目の目標と評価の観点の趣旨を踏まえ、単元の内容に合わせて観点別の評価規準を設定する。
- イ 単元の評価規準を設定することで、どの内容を設定しているか、どのような判定をするべきか明確に分かるようにすること。  
単元の評価規準を設定することで、学習活動中に評価する場面や、例えばワークシートや考査等を通じて評価するなどの評価方法についても明確になる。
- ウ 判定規準を明確に設定していること。  
「おおむね満足できる」状況（B）、「十分満足できる」状況（A）、「努力を要する」状況（C）について生徒の状況を明確にすることで、指導する過程において、的確な評価が可能となる。また、評価結果を記録したり、数値に示したりする場合にも信頼性が高い、ぶれのない評価が可能となる。

これらの配慮事項を踏まえて評価規準を設定することによって、教師の先入観にとらわれず、学校の特色や生徒の実態に合わせた評価規準によって評価することが可能となる。また、生徒や保護者に学習活動の中でどのように評価してきたのかを、明確に説明する根拠ともなる。

## 3 学習評価の具体例

### (1) 生活産業基礎

#### ア 科目の評価の観点及びその趣旨

「生活産業基礎」の特性に応じた評価の観点及びその趣旨は以下のとおりである。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業について、関心を持ち、生活関連分野のスペシャリストとして必要な知識と技術を進んで習得しようとする意欲と態度を身に付けている。	衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業について、生活関連分野のスペシャリストとして活用するための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し表現する創造的な能力を身に付けている。	衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業に関わる技術を身に付けている。	衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業に関わる知識を身に付けている。

イ 評価方法の具体例

今回の改訂においては、単元「(2)生活の変化に対応した商品・サービスの提供」が新たに追加された。この単元の「イ 商品・サービスの開発及び販売・提供」について、「商品・サービスの情報分析～生活家電製品の情報分析」の授業展開例を示し、その評価方法について示す。

【学習指導要領の内容】			
(2)生活の変化に対応した商品・サービスの提供 イ 商品・サービスの開発及び販売・提供			
【「大項目(2)生活の変化に対応した商品・サービスの提供」の評価規準に盛り込むべき事項】			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
消費者のニーズの把握、商品・サービスの開発及び販売・提供、関連法規について関心を持ち、主体的に学習活動に取り組もうとしている。	生活の変化に対応した商品・サービスの提供について、具体例を通して思考を深め、表現している。	具体的な事例を通して、生活の変化に対応した商品・サービスの提供について、検討するために必要な技術を身に付けている。	消費者のニーズの把握、商品・サービスの開発及び販売・提供、関連法規について理解している。
【「中項目イ 商品・サービスの開発及び販売・提供」の評価規準の設定例】			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>商品・サービスの開発及び販売・提供の仕組みについて関心をもっている。</li> <li>消費者に信頼される商品やサービスを提供するシステムについて考えようとしている。</li> <li>消費者の購買意欲を高めるような店舗設計、ディスプレイ、広告などの販売促進について考えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品・サービスの開発及び販売・提供の仕組みについて分析し、まとめ、発表している。</li> <li>消費者の購買意欲を高めるような店舗設計、ディスプレイ、広告などの販売促進について分析し、まとめ、発表し、改善策を工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品・サービスの市場調査などの結果を基に、デザインしたり試作したりすることができる。</li> <li>消費者の購買意欲を高める店舗設計、ディスプレイ、広告などの販売促進に関わる情報を収集・整理することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品・サービスの企画、開発から生産、販売・提供に結び付ける仕組みについて理解している。</li> <li>消費者に信頼される商品やサービスを提供するためのシステムについて理解している。</li> </ul>
【指導と評価の計画例（16時間）】			
クラス	1 学年	予定時間	(ア)商品・サービスの情報分析について…5時間（第1次） (イ)新商品・サービスの企画について…8時間（第2次） (ウ)流通・販売の促進について…3時間（第3次）
	【ねらい】◆学習活動	評価の観点	評価規準・評価方法
(ア) 第1次	【ねらい】 商品・サービスの情報を分析し、どのような消費者のニーズに対応して開発・販売・提供されているかを理解する。 ◆生活産業に関わる身近なヒット商品について、グループごとに情報収集と分析を行い、発表をする。 ◆生活家電製品の情報を収集し、比較分析をする。※1	● ●	● ●
(イ) 第2次	【ねらい】 新商品・サービスの開発について意欲的に取り組み、企画・デザインする。 ◆衣食住、ヒューマンサービスの一つの分野をとりあげ、グループで新商品・サービスの開発企画を行い、発表する。	●	●
(ウ) 第3次	【ねらい】 消費者に信頼される商品・サービスを提供するためのシステムや、購買意欲を高めるための販売促進について理解する。 ◆流通・販売の仕組み・多様化について学習する。 ◆グループで企画した商品・サービスについて広告を作成し、販売促進についてワークシートを作成する。	●	●

【授業展開例 ※1】				
教科(科目)	生活産業基礎	単元名 指導項目 及び予定時間	(2)生活の変化に対応した商品・サービスの提供 イ 商品・サービスの開発及び販売・提供(16時間)	
クラス	1学年			
本時の主題	「商品・サービスの情報分析～生活家電製品について」(4・5時間目/16時間)			
本時の目標	インターネットなどで生活家電製品の情報を収集し、それらの情報を分析し、消費者のニーズに対応した商品の開発・販売・提供のしくみを理解する。			
過程	指導内容	学習活動	評価について	指導上の留意点
導入	・前時の振り返り ・本時の目標の確認	・グループごとのヒット商品情報分析の発表を振り返る。 ・生活家電製品の情報分析を行うことを確認する。	【技能】 ・商品についての情報を適切に収集・整理できている。 〈評価方法〉 ◇ワークシート	
展開	・情報収集分析の方法について ・商品についての情報収集  ・収集した情報の分析	・情報収集や分析方法を理解する。 ・何について調べるか計画を立てる。 ・生活家電製品を一つ決め、いくつかの商品についての情報をインターネット等で収集する。 ・それらの商品についての特長、容量、タイプなどの情報をまとめる。 ・その商品がどのようなライフスタイル、消費者ニーズに対応しているか等を分析する。	【思考・判断・表現】 ・集めた情報に関して、商品ごとの特長などについて思考を深め、分析している。 ・ライフスタイルや家族構成による消費者ニーズの違いを考え、商品開発にどのように反映されているか分析している。 〈評価方法〉 ◇ワークシート	・家電製品は家事労働に関わる生活家電を選択させる。 ・事前にパンフレット等を集めさせてもよい。 ・同レベルの複数商品を比較させる。
まとめ	・まとめ ・次時の予告	・ワークシートに写真を貼付して提出する。 ・次は新商品・サービスの開発企画をグループで行うことを確認する。		・間に合わなかった場合、次時に提出することを指示する。

【ワークシート例】					
選んだ家電商品		ドラム式洗濯乾燥機		1年組 氏名 △△△△△	
	商品 A		商品 B		
その商品の情報	商品	メーカー名 ○○○○	商品名 ○○○○	メーカー名 ××××	商品名 ××××
	写真	写真貼付		写真貼付	
商品の特長	特長	洗浄力が強力	静音	洗濯槽を自動お掃除	省エネ・節水
		省エネ・節水		乾燥の仕上がりがやさしい	
商品分析	消費者のどのようなニーズに対応しているか				
	しっかり洗える商品がよい		洗濯槽の汚れが気になる		
	音が静かな商品がよい		環境にやさしい商品がよい		
	水道料金や電気代などが安くすむ商品がよい		乾燥機をかけるとしわしわになっていやだ		
どんな家族構成・ライフスタイルに合った商品か					
小さい子どもがいる家族		乾燥機をよく使う家庭			
洗濯回数の多い生活をしている人		エコが気になる人			

**評価規準：**

A「十分満足できる」  
商品の情報分析から、現代の社会情勢を踏まえて消費者ニーズを思考し、そこから家族構成やライフスタイルをより具体的にイメージできている。

B「おおむね満足できる」  
商品の情報分析から消費者ニーズを思考し、そこから家族構成やライフスタイルをイメージできている。

C「努力を要する」  
消費者ニーズを思考することができず、適切に表現できていない。家族構成やライフスタイルをイメージすることができず、適切に表現できていない。

**C「努力を要する」状況に至らないための指導の配慮**

机間巡視をしながら、生徒の状況に応じて、商品の広告宣伝に着目させ、どのようなニーズから生まれたのか等、問いかける。また、どのようなライフスタイルや家族構成がそれらの機能を必要としているか、問いかける。必要に応じて近くの生徒と相談しながら考えてもよいこととする。

**C「努力を要する」と判断した生徒への手だて**

不十分だった箇所について、より具体的な思考を促すコメントを記入し、再提出させる。

## (2) リビングデザイン

### ア 評価の観点及びその趣旨

学習指導要領を踏まえ、「リビングデザイン」の特性に応じた評価の観点及びその趣旨は以下のとおりである。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
住生活と住文化、住空間の構成について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組む意欲と実践的な態度を身に付けている。	住生活と住文化、住空間を取り巻く諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、快適な住空間を計画し、デザインできる能力を身に付けている。	住空間に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、住空間に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	住生活や住文化に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

### イ 評価方法の具体例

今回の改訂においては、住生活と文化、環境共生や住環境福祉などの視点を加えて改善が図られた。ここでは、単元「(2) 住空間の構成と計画」について、「エ 住空間の平面計画実習」の授業展開例及びその評価方法について示す。【表1】は「内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項」、【表2】は「評価規準の設定例」、【表3】は授業展開例、【表4】は授業で使用するワークシート例である。

【表1】「(2)住空間の構成と計画」の評価規準に盛り込むべき事項			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
住生活と住空間、住空間の構成と材料、住空間の環境と設備について関心をもち、主体的に学習活動に取り組もうとしている。	住空間の構成と計画について、具体例を通して思考を深め、表現している。	具体的な事例を通して、住空間の構成と計画について、検討するために必要な技術を身に付けている。	住空間の構成と計画のために必要な住空間の構成と材料、環境と設備に関する基礎的事項について理解している。

  

【表2】「ア 住生活と住空間、イ 住空間の構成と材料、ウ 住空間の環境と設備、エ 住空間の平面計画実習」の評価規準の設定例			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>家族の生活とライフステージごとの住意識や住要求の変遷、それにともなう住空間の構成や計画の変更の必要性、生活行為と寸法、ゾーニング、動線、各室の配置と位置関係について関心をもち、主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族の生活とライフステージごとの住意識や住要求の変遷、それにともなう住空間の構成や計画の変更の必要性、生活行為と寸法、ゾーニング、動線、各室の配置と位置関係について課題を見だし、改善策を工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住生活と住空間について、情報を収集し、整理することができる。</li> <li>住空間の構成や計画、ゾーニングなどができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族の生活とライフステージごとの住意識や住要求の変遷、それにともなう住空間の構成や計画の変更の必要性、生活行為と寸法、ゾーニング、動線、各室の配置と位置関係について理解している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な住生活を営むために必要な住空間の構造と建築材料について関心をもち、主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な住生活を営むために必要な住空間の構造と建築材料について課題を見だし、改善策を工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な住生活を営むために必要な住空間の構造と建築材料について、情報を収集し、整理することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な住生活を営むために必要な住空間の構造と建築材料について理解している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>快適な住生活を営むために必要な室内環境の在り方と住宅設備について関心をもち、主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>快適な住生活を営むために必要な室内環境の在り方と住宅設備について課題を見だし、改善策を工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>快適な住生活を営むために必要な室内環境の在り方と住宅設備について、情報を収集し、整理することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>快適な住生活を営むために必要な室内環境の在り方と住宅設備について理解している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>家族構成、敷地条件、経済性、安全性、住要求などに配慮して、住居の平面計画の検討について関心をもち、主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族構成、敷地条件、経済性、安全性、住要求などに配慮して、住居の平面計画の検討について課題を見だし、改善策を工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族構成、敷地条件、経済性、安全性、住要求などに配慮して、住居の平面計画ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族構成、敷地条件、経済性、安全性、住要求などに配慮して、住居の平面計画の検討を行うことについて理解している。</li> </ul>

【表3】授業展開例

教科(科目)	リビングデザイン	単元名 指導項目 及び予定 時間	(2)住空間の構成と計画 エ 住空間の平面計画実習(24時間) (7)設計について...6時間 (4)住居の計画について...10時間 (9)製図の基本実習について...8時間	
クラス	2学年			
本時の主題	「キッチンの機能的な構成や配置」(7時間目/24時間)			
本時の目標	キッチンのゾーニングや動線等、機能的な構成や配置を理解し、キッチンの平面計画ができるようにする。			
過程	指導内容	学習活動	評価について	指導上の留意点
導入	・本時の目標の確認をする。	・本時の目標や学習内容の流れを確認する。		
展開	・リビングデザインノートを活用し、キッチンの歴史や現代のキッチンの構成等を理解させる。 ・ワークシートを活用し、キッチンのレイアウトを考えさせる。	・説明を聞き、キッチンの歴史や現代のキッチンの構成などについて理解する。  ・理解した内容をもとにキッチンに求めるイメージを考える。  ・キッチンのレイアウトを考える。	・【知識・理解】 キッチンの構成や寸法など、平面図を描くための条件について理解している。 〈評価方法〉 ◇リビングデザインノート ・【関心・意欲・態度】 キッチンの平面計画についてイメージをふくらませ、主体的に取り組もうとしている。 〈評価方法〉◇観察 ・【技能】 効率性、経済性、安全性等を考えながら、自分のイメージするキッチンの平面計画ができる。 〈評価方法〉◇ワークシート	・ポイントを絞って、わかりやすく説明する。  ・机間巡視しながらアドバイスする。 作業が遅れている生徒へは作業のポイントを個別に説明する。
まとめ	・本時の内容をまとめ、理解させる。 ・自己評価票を記入させる。 ・次時の予告をする。	・本時の内容を確認する。 ・自己評価票に記入する。 ・次回までの課題を確認する。		・机間巡視により生徒一人一人の記入が済んでいるか確認する。

【表4】ワークシート例

キッチンのレイアウトを考えてみよう 2年組 氏名(○○○○)

1. あなたが設計するとしたらどんなキッチンにしたいですか?キッチンに求めるイメージを自由に書きましょう。

使いやすいキッチン。家族と一緒に料理ができるキッチン。

2. あなたのイメージに合うキッチンを設計するためにはどの配置にしたらよいでしょう?一つ選び○を付けましょう。

I型    II型    **III型**    U型    その他( )

3. シンク・加熱調理機器・冷蔵庫のワークトライアングルのレイアウトを考えよう。(寸法を入れること)

参考:効率のよいワークトライアングル

4. どのような点に考慮してレイアウトを考えましたか?

・シンク作業台を中心に、食材をとり出し、下ごしらえして加熱調理作業がしやすいように配置  
・加熱調理機器の両側に作業台を設け、片足で作業スペースを確保した。

【技能】の評価

**A「十分満足できる」の例**  
家族構成、敷地条件、経済性、安全性、住要求とともに家族のコミュニケーションなどに配慮して、住居の平面計画ができる。

**B「おおむね満足できる」の例**  
家族構成、敷地条件、経済性、安全性、住要求などに配慮して、住居の平面計画ができる。

**C「努力を要する」の例**  
家族構成、敷地条件、経済性、安全性、住要求などに配慮して、住居の平面計画ができない。

**C「努力を要する」と判断した生徒への手立ての例**  
住居の平面計画ができない原因をしっかりと把握し、対応する。(基本的な知識・技能、イメージ、関心・意欲など)  
キッチンのレイアウトの具体例をさらに提示し、イメージをふくらませるなどする。